

経済・金融 フラッシュ

6月マネー関連:

貸出は運転資金、地公体の借り換え需要により増加

経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

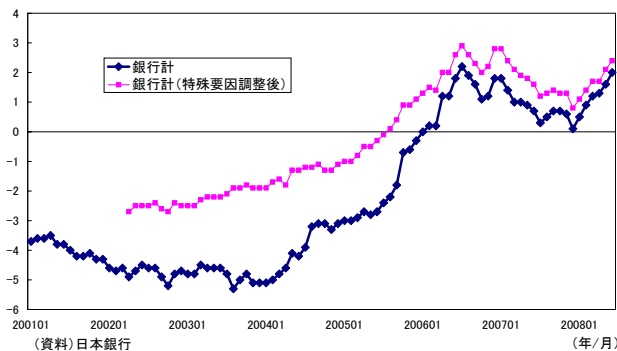
TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

1. 貸出動向: 運転資金需要、地方公共団体の借り換え需要により増加

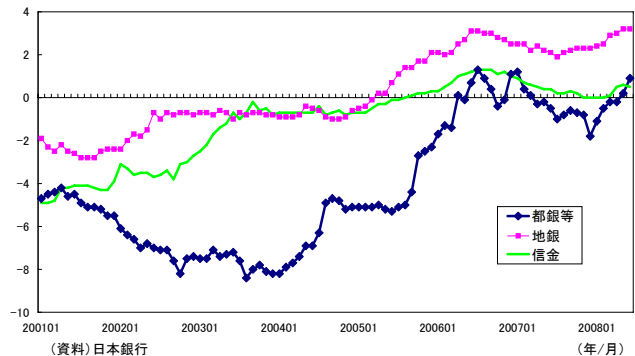
日本銀行が7月8日に公表した貸出・資金吸収動向等によると、6月の総貸出(平残、銀行・信金計)は前年比1.8%(29カ月連続のプラス)と6ヶ月連続で前年比伸び率が高まっている(図表1、2)。

マクロ低迷の状況とは逆に伸び率が高まっているが、①原油高などによる運転資金需要、②地方公共団体による借り換え需要などの特殊要因によるもので、内容的にはいいものとはいえない。

(前年比、%) (図表1) 貸出動向



(前年比、%) (図表2) 業態別貸出動向

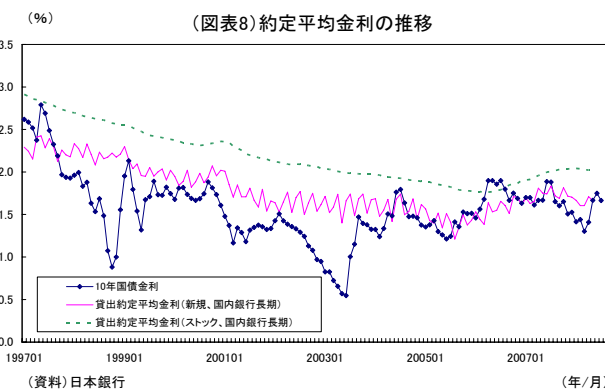
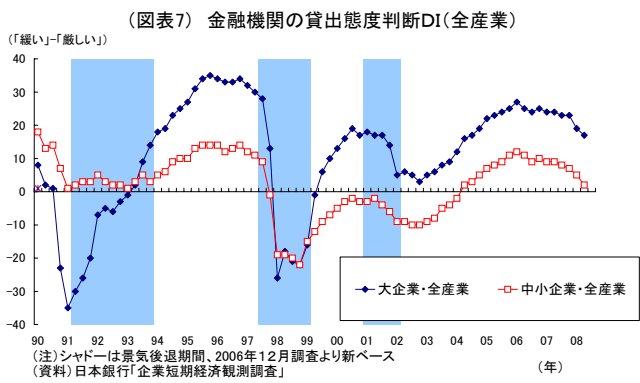
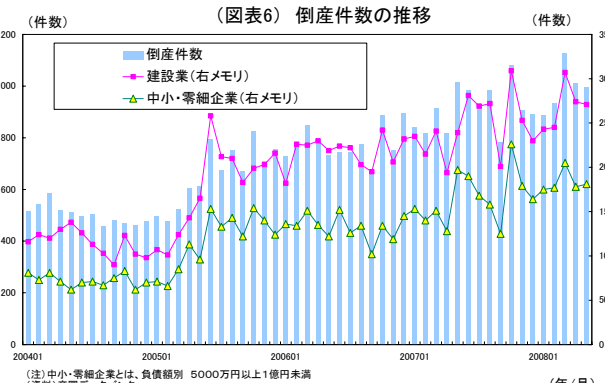
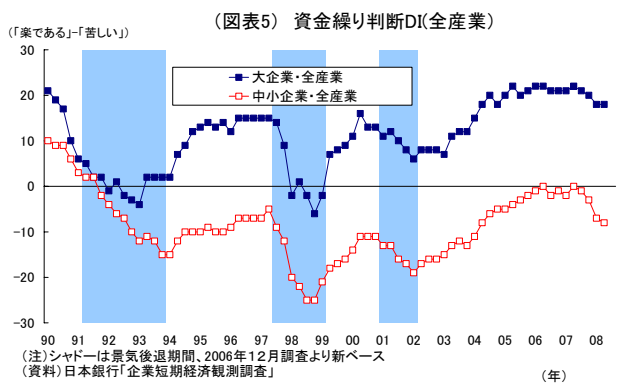
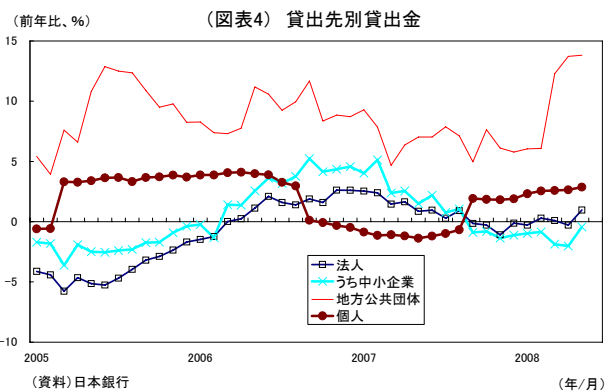
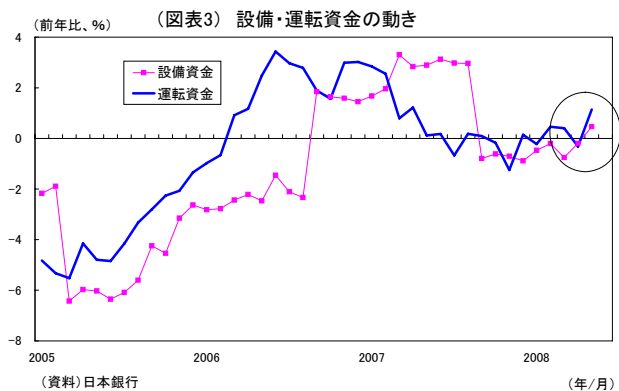


中小企業を中心に原材料高の影響を受け、資金繰りがいっそう悪化しており、運転資金需要が膨らんでいる(図表3)。

地方公共団体の借り換えは、厳しい財政事情等を踏まえ、2007年度から09年度までの臨時特例措置として、行政改革を条件に、地方公共団体に対する財政融資資金の貸付金の一部について、補償金を免除した繰上償還を実施するというもの。

地方公共団体向けは、貸出残の4%程度でその伸び率が5%程度から足元15%程度まで伸びており、貸出全体への寄与度は約 $4\% \times 10\% = 0.4\%$ 程度ある(図表4)。

今後については、原材料高による運転資金需要や地方公共団体の借り換えはしばらく貸出増加に寄与しそうだが、①マクロの低迷、②貸出厳格化の動き(図表5)、③住宅市場低迷から個人ローンが頭打ち、などから貸出も鈍化する可能性が高いと見ている。

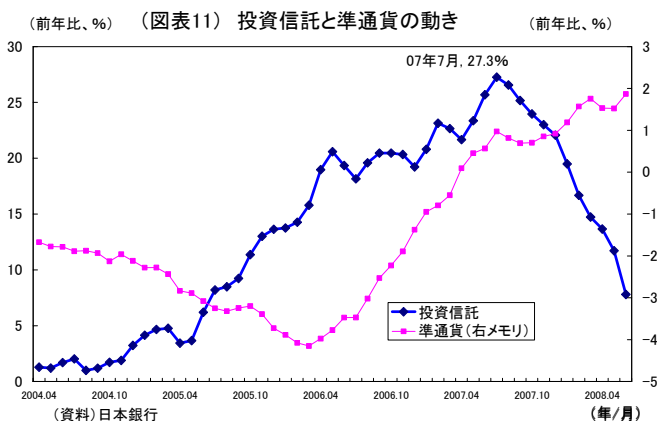
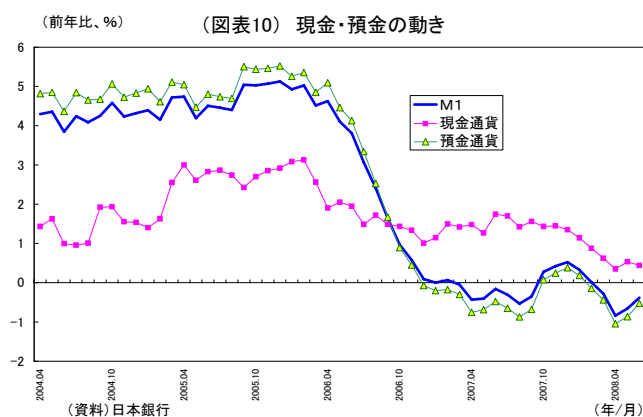
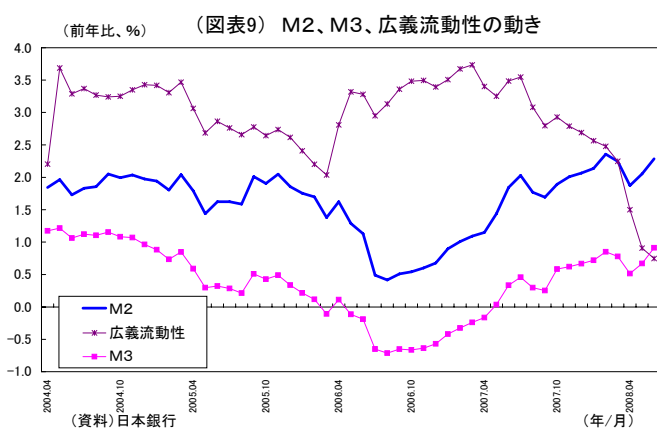


2. マネー：景気の減速から広義流動性の伸びは鈍化が続く

日本銀行が8日に公表した「マネースtock」統計によると、従来代表的指数だったM2+CDに変わるM2（現金、国内銀行などの預金）は6月前年比2.3%増と、5月の2.1%増から伸びが加速した。

M2にゆうちょ銀などすべての預金取扱金融機関の預貯金を含めたM3も前年比0.9%増となり、5月の0.7%増より拡大した。M3に信託などを含めた広義流動性は0.7%増と、こちらは5月の0.9%増から伸びが鈍化、伸び率は8ヶ月連続で低下している。

(図表11)のように定期預金などの準通貨が増える一方で、リスク資産である投信(11ヶ月連続で減少、伸び率が1ケタ台にまで低下してきている)が伸び悩むなど、安全資産への動きが継続している。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。